

2020.11.22 王であるキリスト

## てっぺんのかなめ石

マタイ福音書 25:31-46

（そのとき、イエスは弟子たちは言われた。） 「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊を左に置く。そこで、王は右側にいる人たちに言う。

『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のと看に見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渴いたときに飲ませず、旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のと看、牢にいたときに、訪ねてくれなかつたからだ。』すると、彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渴いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかつたのでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。この最も小さい者の

一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。」

## 説教

**そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』マタ 25:40**

裁きのときがくれば、人の子は栄光の座についてヒツジ組とヤギ組に分ける、そしてヒツジ組は天国、ヤギ組は地獄に行くといひます。おそろしい話です。福音にはヒツジ組の人たちはいつやりましたっけ？憶えがないんですが、と書いてあります。逆にヤギ組の人たちはちゃんとお世話したじゃないですか、と言い張っています。でも審判は下されました。裁定の基準は「小さな者にしたか、しなかったか」です。

先週までのたとえ話の天国組は「賢いおとめ」であり「5タラントン男」でした。準備万端、用意周到の賢いおとめたちは天国に、5タラントンの元手をスマートに投資した男も天国行き、油切れの愚かなおとめたちや1タラントンを土の中に埋めた男は地獄行きでした。どっちが良くてどっちが悪いを理屈でいうなら準備不足の方が悪し、何もせず怠けている1タラントン男のほうが悪いので文句のつけようはありません。しかし、割り切れない感じは残ります。一言でいえば「愛」がないのです。その一方で「小さき者云々」の裁定には愛はありますが、事実（ファクト）に欠けている感じがします。ヤギさん組の言い分もきいてあげればいいのに、もう少しぐらい事実認定をしてもいいんじゃないか、という感じです。

パウロはコリント教会の手紙のなか「愛」についてこう語ります。

**たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。（中略）それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。一コリ**

また、聖書には「隅の親石」ということばが何回か（ヨブ 38:6、ゼカリヤ 4:7、マタ 21:42、マコ 12:10、ルカ 20:17、使徒 4:11、一ペトロ 2:7）でてきます。

**家を建てる者の退けた石が／隅の親石となった。詩編 118:22**

新約の解釈ではこの親石はイエス・キリストです。すべての土台はキリストだという解釈です。

キリストの土台の上に立つ者たちは賢いおとめたちであり、5タラントン投資男であるという見方です。なるほど、できのいい方はそうでしょう。でもできの悪い方、愚かなおとめたちや1タラントン土埋め男はどこに立っているのでしょうか。同じ人間じゃあないですか。彼女、彼らもキリストの土台の上に建てられているのではないのでしょうか。

最近では親石を土台の石ではなく石造建築（石のアーチなど）のてっぺんの楔形のかなめ石とする解釈もあります。石造アーチのてっぺんに打ち込むくさび石はすべてを支えるかなめ石です。下から支えるか、上で支えるかの違いです。わたし的にはイエスさまは上で支えてくれたほうがありがたみが増すので土台石（コーナーストーン）ではなく、かなめ石（キーストーン）を支持します。

自分たちは小さき者のお世話をしたつもりになっているので、ヤギさん組は地獄行きに仕分けられます。ヒツジさんたちが、いつ小さき者に親切にしたのか憶えがないのは知らず知らずのうちにおこなっているからです。ヒツジさんたちの振る舞いはいつしかイエスさまの教えを実践していたのです。天国行きにと仕分けされたヒツジさん組はイエスさまのキーストーン（かなめ石）をめいめいの心の中に持っている、聖霊が一人ひとりのうちにはたらいっている人々です。しかし、ヤギさん組はイエスさまのキーストーンを知らず、自分の思いだけで小さきと思われる人に親切にしていただけだったのでしょう。

**主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく／わたしを正しい道に導かれる。詩編 23:2-3**

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」このみことばを心に刻みましょう。もし、疲れているのなら休ませていただき、魂を生き返らせてもらいましょう。見失っているところを取り戻し、正しい道へと導いていただきましょう。すべてを一つにしてくださるかなめ石の主イエス・キリストを信じましょう。

-----